

農園便り 3

月号 (109号)

文責 筒口 典康

(2022/03/01)

大変嬉しいことに、家の光社「やさい畑」4月号(春号)に、提案する野菜作りの記事が載りました。同社編集部・写真部で編集されて、大変解り易い内容になっています。全6頁です。ご覧ください。



22/1/31 畑 58 区の返還



1/31 有機栽培の畑地は盛り上がる 指先大の土粒が...

菜園の方は、区の都市農業課・区民農園担当に問い合わせました処、5月までには決着がつくとの事で、大層ヤキモキしております。現在、補欠2番までは使えるようですが、3番の私については未決状態です。イライラが続く…。取りあえずは、播種床トレイに葉物野菜を蒔いておきましょう。トレイに播きますと徒長気味になってしまいます。一刻も早く耕作畝に、直播したいものであります。(2/26 都市農業課から連絡、33区使用可。希望を伝える)

使用期間2年の1年目は、基本(農園便り100号)を少し変えます。考え方は同じです。土毎醗酵の時間が取れないので一苦勞。「醗酵豚糞」「蟹殻」「糠」。「ダルマ堆肥」「みのり堆肥」「醗酵牛糞堆肥」「牡蠣殻石灰」「籾殻燻炭」で、土作り。「光合成細菌」「窒素固定菌」、その他の「善玉菌」も使いましょう。

全て、今年のテーマの「オクオク・ラクラク」(置々・楽々)でまいります。三角鍬で混ぜるだけで、…。2年間の不耕起栽培の始まりです。



21/11/23 パパイアの幼果 野菜として食べる



11/30 3本育ててジャングル化 葉物野菜が生育不良に

昨年パパイア3本を作ってみました。ものすごい成長ぶりに驚く。硬盤

(固まった土の層)を突き破り、根を張る。 たった3本で、ジャングル化。 未熟果を野菜としていただきました。 台湾出身のご婦人に、調理の仕方を教えていただきました。 炒めて、茹でて、初体験。

ところで、草とも木とも言えそうもないパパイヤの根を掘り上げて、ミニ温室に取り込むが、夜温5℃を下回りダウン。 トマト、サツマイモ並みの10℃を下がらないようにしないとダメだ。 掘り上げが大変でした。

移植は9月、10月。 12月では低温で生長が止まり、腐敗してしまった。根張りが大きく重いので温室の床にそのまま置いた。根の保温が出来ていなかった。

今年も作ろうかどうか、迷っています。 硬盤突破。不耕起で硬い地層を貫通する。 冬には「根」は溶けてしまう。 多分その根穴で、排水機能が生まれると考えられます。 深耕しなくても「根」で突破。 究極の不耕起であります。「根耕」であります。 セスバニヤ(マメ科・熱帯植物)でもそんな話を読んだことがあります。 「根」が、深耕してくれます。

今年の作付けとしまして、一番南側にニラ列、次にコンテナを並べて、クワイに蓮根、セリ・クレソン。越冬できていれば、姫カワホネ。イネも植えましょう。 水大好きなナス。 サトイモ。 ショウガ、セロリ。 **中央作業路**。葉物野菜混植列。大根の点播、ニンジン列。トマト、キュウリ、トウガラシ。トウモロコシの2列植え。そして、鉢植えの蔓物の鉢。 少しずつ変化します。

囲みの外側ぐるりと、宿根草野菜を植えましょう。食用菊、観賞菊、アシタバ、ミツバ、クロレタリヤ(マメ科)、タンジー・マジー(キク科・虫除け)、カタバミも…。 レンゲ、カラスノエンドウ、クロレタリヤも。 アワ、キビ、サトウキビも。これらは、マルチ材として使います。

蔓物の鉢などの○○○列 ヤマノイモ⇒根(食用部分)は、鉢の中でグルグル。収穫が楽になるでしょう。 サツマイモ⇒鉢に小穴を開けて置きます。蔓は立ち上げて横に伸ばす。鉢の穴は、サツマイモの根がとても好気性なので、開けときます。鉢が割れてしまう程に芋が出来ます。 オカワカメ⇒既に鉢で越冬させてあるので、そのまま畝に置く。ツルムラサキは購入苗を鉢に植える。

鉢達の近くに、アピオス、大和イモ(山芋の仲間)を植える。鉢には植えない。根が地表近くを這い回るので。

サトイモ⇒去年1鉢作ってみました。中々調子が良かった。腐葉土を多く、多肥気味にします。芋たちには草木灰を与えます。沢山与えると育ちすぎてしまう。美味しくない。程々に。

葉物野菜たち 小松菜、法連草、水菜、春菊、レタス。 キャベツ、ブロッコリー、白菜。蕪に大根…。 野の草たちのように混ぜて蒔く。これは、強勢な植物に支配されてうまく出来ない。やはり、品種ごとのブロック別に蒔いた方が良さそうだ。 そんなことは基本の基、今更なんだ！。でも、やってみて解るって言うことも、良いのではなかろうかと思う。 季節ごとの蒔き

時もありますから、・・・色々と組み合わせを考えること、面白いではありませんか？。「野原の如く作る」これは良い発想であると思います。狭小な菜園だから出来る楽しみなのであります。畑に行けば何かある。そんな作付をしていきたいものであります。醗酵豚糞堆肥(エンザ)で追肥する。軽く撒くだけ。とにかく、オクオク・ラクラクの作業で、まいりましょう。



2022/02/21

我が家のダイダイ

スプリングアーリー(葉2枚付きの) セミノール(中心の3つ) ダイダイ 甘夏柑

2月16日、小庭のダイダイを採る。で、・・・、色々と考えた。

東京も暖かくなったものだと。ミカンもネーブルも寒さで枯れなくなった。今まで柚子と夏蜜柑がせいぜいでしたもの。既に暖帯域となっている。

スプリングアーリー(ネーブル系)、この品種は絶対お勧めです。早くから食べられる。このアーリーは酸味が少なく甘味が入る。かと言って甘すぎない。甘酸相和している。10月下旬からいただけます。食後のフルーツとして最適だ。

姪の、るりちゃんがアーリーを使って砂糖菓子を作りました。長崎土産で売っている分担甘菓子より美味しいのであります。ごく僅かの苦味が生きています。絶品でした。石神井(練馬)産アーリーの甘菓子になっている。

果樹を植えるなら気温条件。地植えか鉢植えか。好酸性土か好中性土か。好弱酸性土か。品種を選ぶ。有機・無農薬栽培で作しましょう。

温州ミカンも品種が色々あります。品種によってはかなりお高いが、思い切って大苗で仕入れましょう。南向きのテラスなら、30個40個は成りますヨ。中苗・小苗だったら、植える鉢は小振りの物から始めます。突然大鉢に植えてはなりません。テラス栽培では、自動給水に工夫しましょう。

剪定は、収穫する時に行います。今年実を付けた枝には、来年花は咲きません。実の付いた枝を除いて、枝葉の重なっている所を空かします。専門書に色々書かれていますが、枝を抜く程度でよろしい。庭木のツゲの様な剪定は一番、✖。樹幹・樹間に日光が入るようにしてやります。枝を上げたい時には、上え向きの芽を枝を伸ばします。実を沢山つけたい時には、やや横向きの枝を残します。切り口が太陽光が当たるような位置で切ります。切断面に枯れ込み防止のトップジン軟膏などを塗る。年中切るのは良くないです。花芽が着きません。下向きの弱い小枝は、取り除きます。

柑橘類につく各種カイガラムシ、アブラムシ(アリマキ)を退治するには、冬季に石灰硫黄合剤の原液を刷毛で茎に塗ると良い。スス病も無くなってきます。芽生えてくるようになると液剤で木が枯れてしまうので気を付ける。風通しの良い剪定をしていくと発生しなくなってきました。

甘い汁を求めて、小鳥たちがやってくる。大歓迎！。ミカンの輪切り等を置いてあげましょう。鳥の来る植え込みを考えていきましょう。メジロ、シジュウカラ、ウグイス達があればしめたものだ。虫害防除に有効である。巣箱を置くのも良い方法だ。やってみる価値があります。それに楽しいですもの。やってみましょう。硫黄合材が不要になって来る。

西荻、東京女子大北門近く(善福寺井公園南)の邸宅に柑橘類を植えてある楽しい庭があります。輪切りにした蜜柑が置いてあつたりします。緩い下り坂の曲がったところにある。青梅街道に抜ける道。



パパイヤ サトウキビ 越冬中 同、ミラクル パパイヤ ジャボチカバ パパイヤ 元気

ミニ温室で越冬させている植物たち。サツマイモ、サトイモ、食用姫蓮根、ショウガ、クワイも4℃を下らないように加温している。発泡スチロールの箱に籾殻燐炭を入れてその中に取り込む。

サツマイモは、霜が降らないうちに鉢に挿し木をして、10℃を下回らないようにガラスケースに入れる。ミラクルフルーツと深沢君にいただいた胡蝶蘭も一緒に……。サツマイモの芋の保存はけっこう難しい……。

もしかすると、パパイヤは4℃ではだめになりそうだ。大き過ぎて入らないのでしかたなく我慢させる。サトウキビは4℃は、ギリギリの線であろう。ジャボチカバは4℃でも葉を落とさない。花芽が覗いている。

温度調節器のスイッチが、いつの間にか切られている。倅の女房がどうやら切るらしい、ジャボチカバの実をご馳走して、妥協に持ち込む。窓ガラスに梱包用のプチプチシートを貼る。入り口のところは3枚重ね。シートで日光不足になる。なにしろ○○ほど恐ろしいものはありませんものネ……。

オザキフラワー 少々遠いのですが、退屈するとオザキフラワーに出かけます。生きた植物図鑑と言えるお店で、何でもあります。とても勉強なさっている店員(主任)に質問攻め。嫌がらずに色々教えていただける嬉しいお店だ。サカタ種苗、タキ種苗等の専門店の連携が取れていて重宝している。

この「農園便り」は2～3年分同じ月の号を読むと面白い。色々の観点が出てくるところが読みどころだ。

T